

七二〇年頃「沼垂城」木簡(長岡市八幡林遺跡)



正保越後国絵図(1645年)

新潟技調/新潟市民プラザ 2022.9.29

古代の湊足柵・蒲原津から新潟湊へ

坂井秀弥

(新潟市歴史博物館長)



©新潟市



都市新潟の歴史的な原点は、信濃川河口に立地し、日本海側屈指の港町として発展した近世の新潟町にある。

©新潟市

## 信濃川河口に発達した新潟と港(西)

政令指定都市の人口ランキング/新潟市16位(78.4万人)

新潟港の貨物取扱量:本州日本海側”第1位(博多・北九州に次ぐ)

# はじめに

- 現在、人口80万人を擁する新潟市は、日本を代表する大河、信濃川の河口に発達した、日本海側屈指の港町です。
- 港町新潟の直接的な起点は、江戸時代に大きく発展した新潟湊・町にあります。中心部「古町」周辺は、江戸時代前期1655年に、浜側にあった町を移転、造成されてから、400年近くその地割はほとんど変わらず継承してきています。
- 新潟市は近代に入って対岸の沼垂と合併し、さらに大きく発展します。沼垂を含めた新潟の歴史は、1300年前、古代の淳足柵と蒲原津にさかのぼります。沼垂は阿賀野川、蒲原は信濃川に依拠した港です。
- 二つの大河は内陸深く貫く大動脈であり、河口が近接・合流することから、新潟は広大な流域と、列島各地や海外とつながる日本海との結節点でした。これが新潟の歴史的原点であり、1600年前後の近世初期に画期をむかえます。
- 日本全体の地域社会の形成と変容という観点や、近年の考古学の成果も加えて、古代から近世へ大きく展開した歴史について具体的に概観します。

## 1600年前後の近世成立期は日本社会の一大変革期



## 日本の歴史

淳足柵(沼垂城)  
蒲原津

沼垂湊  
新潟湊



↑ 織豊政権  
↑ 終戦 明治維新

# 目次

1. 都市新潟の原点 「近世新潟湊町」
2. 二大河川・越後平野の環境と開発  
—新潟湊発展の背景—
3. 新潟湊成立の画期はどこか？  
—河口湊と近世社会の成立—
4. 古代・中世の湍足柵・蒲原津
5. おわりに—港の近代化と大河津分水

## 1. 都市新潟の原点 「近世新潟湊町」



「新潟には歴史がない」と市民はよくいう。私もかつてそう思っていた。石垣と堀が残る城下町を訪ねると、新潟とのちがいが鮮明である。お城のない港町だから歴史がない、と納得していたところもある。しかし、それはまったくちがっていた。



「旧新潟」市街地 NEXT21から朱鷺メッセ方面 みなとぴあは？

## 近世 1655年から続く新潟の町ー計画的都市



新潟町絵図(文政6年/1823)



阿賀野川河口の合流後、古新潟町の船着き場であった白山島との間の流路が浅くなったため、1655年古新潟町は、流路を埋めて白山島・寄居島に平行移動するかたちで移転した。

近世新潟町の復元景観

©みなとぴあ

# 白山堀(一番堀)

白山神社側



白山公園前

白山神社側



©みなとぴあ

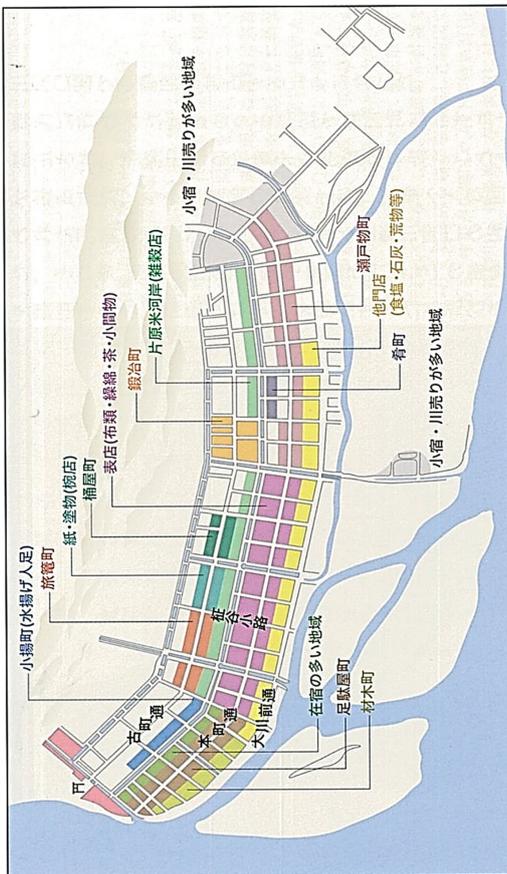
白山堀と肥やし舟



西堀

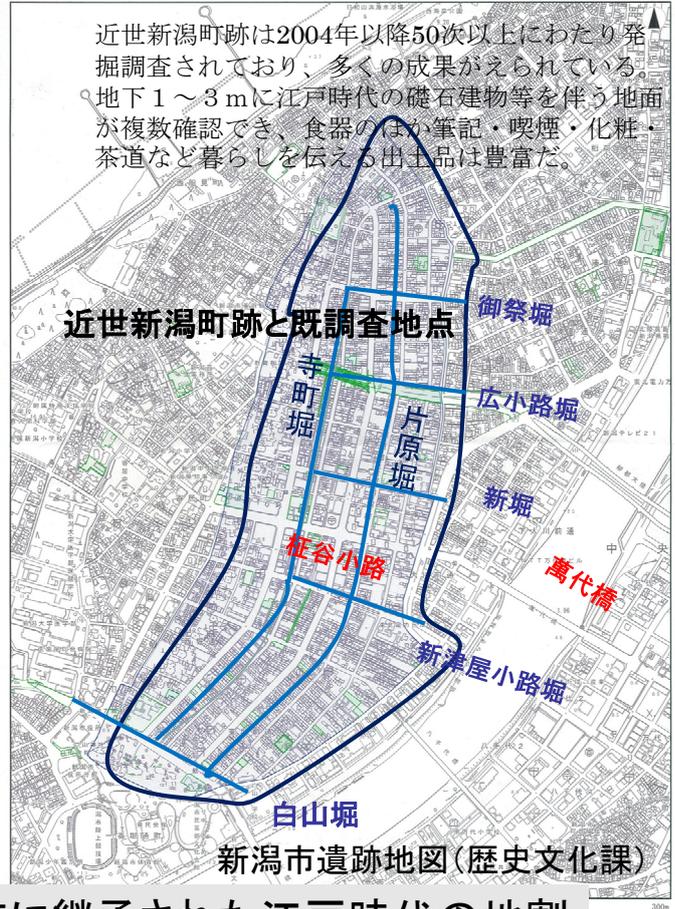
堀は町中の港湾施設でもあり、町としての機能強化と評価できる。日本海は干満差がわずかで(20cm程度)、水位の変動に対応する階段状の雁木は必要ではない

## 新潟町の掘割



新潟市統合型地理情報システム

印刷日時: 2022年09月08日 15時56分



近世新潟町跡は2004年以降50次以上にわたり発掘調査されており、多くの成果がえられている。地下1~3mに江戸時代の礎石建物等を伴う地面が複数確認でき、食器のほか筆記・喫煙・化粧・茶道など暮らしを伝える出土品は豊富だ。

新潟市遺跡地図(歴史文化課)

現在に継承された江戸時代の地割



ルフル地点: 椀店(漆器・紙の専売)  
漆器工房もあった

©新潟市文化財センター



### 西堀前通2

鑄造鑄型等出土  
鍋釜は新潟の名産  
鑄物師として藤田家・  
相場家があり  
藤田家は近江出身  
原料は出雲の砂鉄

## 発掘された近世新潟町

記録と合致するもののほか、遺跡から新たに判明する事実も多い。土地に積み重ねられてきた人々の営みを実感する

## 発掘された近世新潟町

陶磁器は遠い九州肥前産が主体を占める。新潟の名産となる漆器や鍋釜の工房も記録と合致して確認される。軟弱地盤に対応する基礎を用いた建物は新潟らしい。絵図の屋敷境と一致する溝が複数回同位置で作り直しされ、屋敷割の踏襲がわかる。

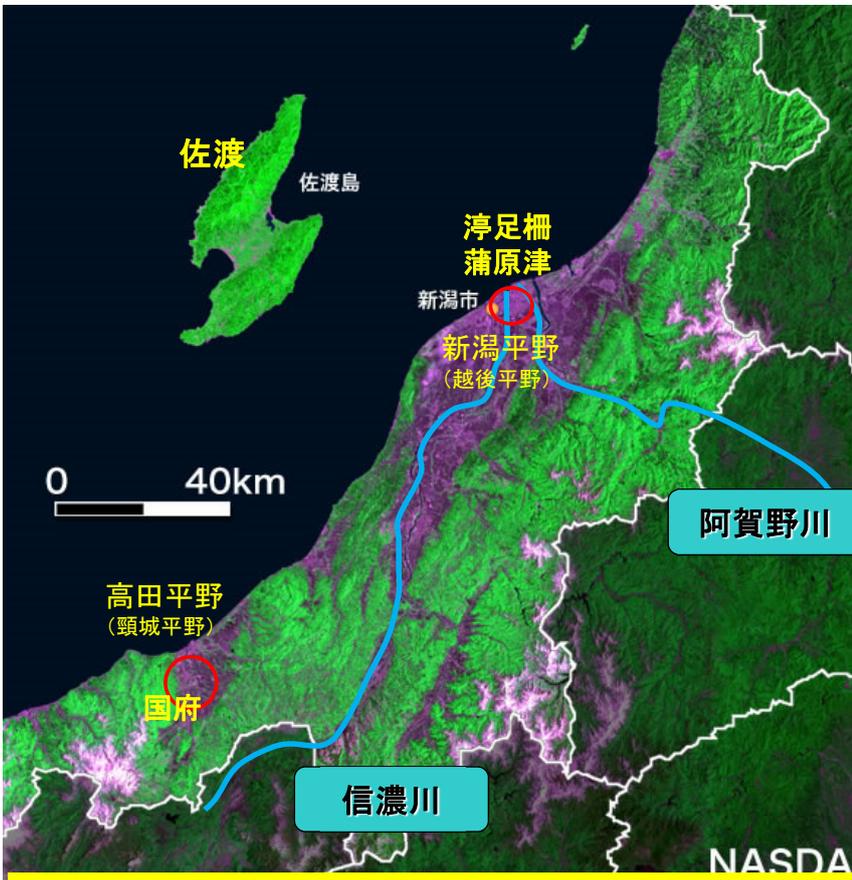


低湿地に材木の基礎を置いた建物 広小路堀



### 伊万里焼

出土品は豊富で上質品も多く、湊町の経済力の高さがうかがえる。



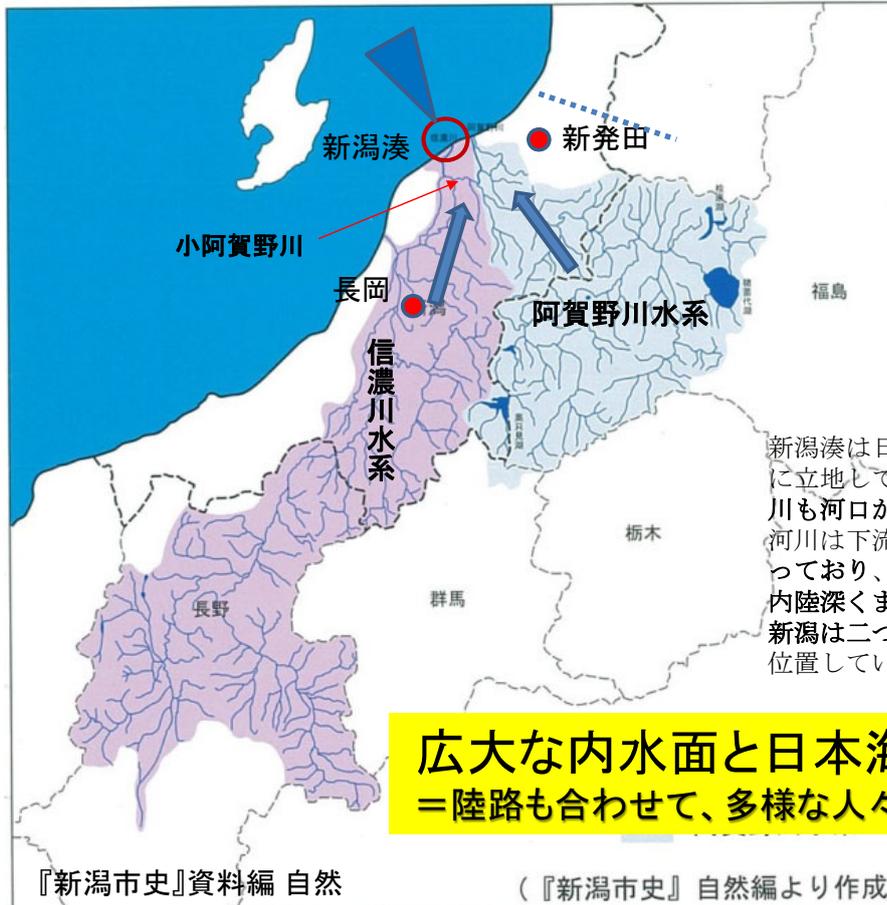
### 【新潟県】

- ・日本海側のほぼ中央に位置
- ・長大な領域・面積：12,579km<sup>2</sup> (5位、=富山・石川・福井3県)
- ・長い海岸線：333.5km
- ・大きな佐渡島：875km<sup>2</sup>
- ・日本を代表する大河川 信濃川、阿賀野川
- ・広大な新潟平野 (2000km<sup>2</sup>)
- ・複雑な地域性 東北電力・北陸ガス 中部・関東甲信越



## 2. 二大河川・越後平野の環境と開発 —新潟湊発展の背景—

「信濃川・阿賀野川水系図」



### 【信濃川】

長さ：1位 (367km)  
流域面積：3位  
流出量：1位

### 【阿賀野川】

長さ：10位  
流域面積：8位  
流出量：2位

新潟湊は日本海に注ぐ大河、信濃川の河口に立地している。もう一つの大河、阿賀野川も河口が近接し合流する時期もある。二河川は下流域で小阿賀野川を介してつながっており、かつ、長野県・福島県(会津)の内陸深くまで貫く大動脈であることから、新潟は二つの広大な流域が収束する地点に位置している

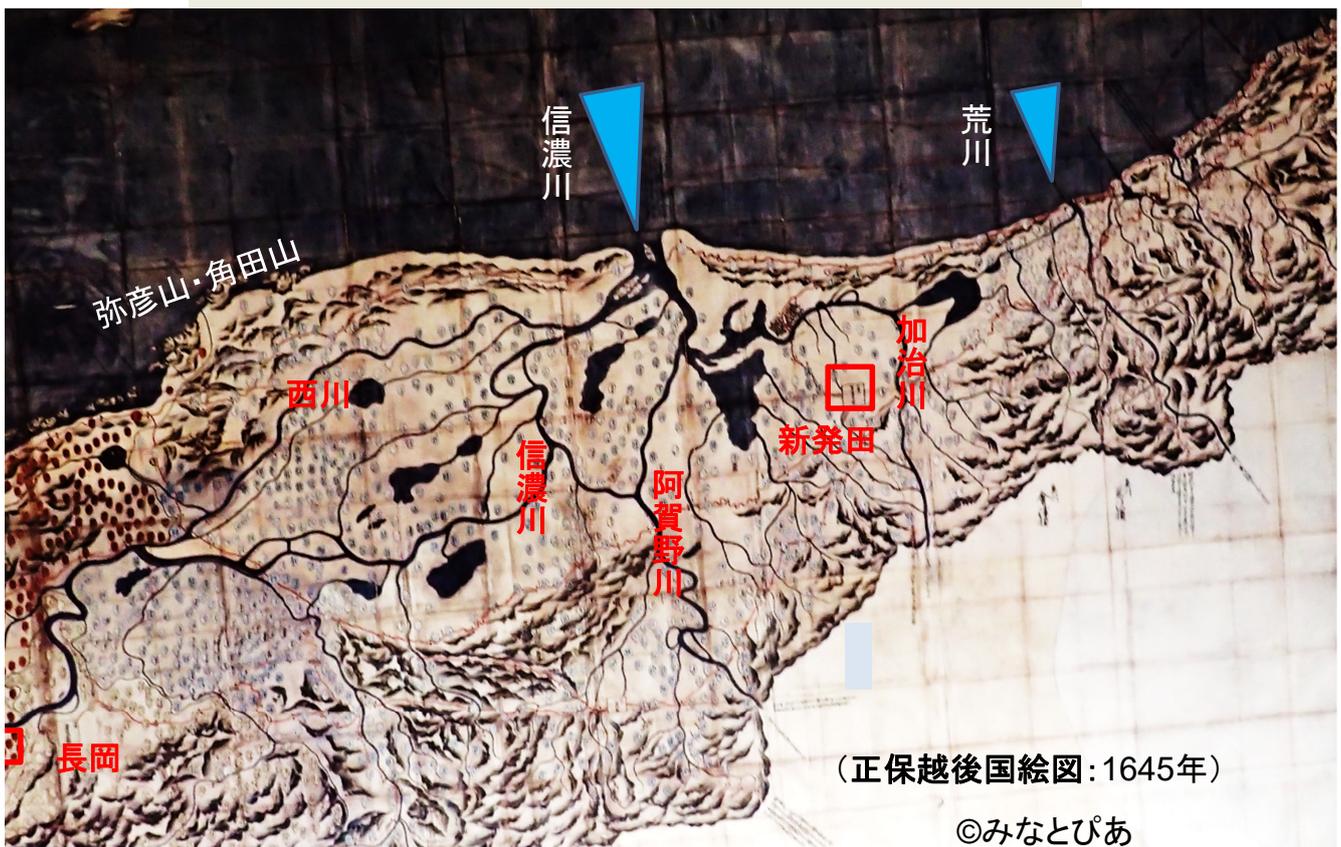
広大な内水面と日本海をつなぐ新潟湊  
=陸路も合わせて、多様な人々や物資・情報の集散地

江戸時代以降、  
人が川を変えて  
きた！



現在の新潟市(中央区・東区)／信濃川と阿賀野川  
政令指定都市の人口ランキング/新潟市16位(78.4万人)

大小の河川・潟湖、低湿地広がる越後平野  
—内水面交通が著しく発達した稀な環境—



## 近世前期の市町 (在郷町)

2005年に合併した新潟市の旧市町村役場は、いずれも近世の在郷町にあった。  
在郷町は市が開かれた地域社会の経済の中心であった。  
新潟に限らず、地域社会の基盤は近世に形成されたといえる。



近世の市町(在郷町)『新潟県史』通史3

## 江戸前期1631年:二河川の河口が合流→やむなく新潟・沼垂が移転

1631年、信濃川の河口に阿賀野川が流入し、地形が大きく変わり湊が維持できなくなったことから、新潟は1655年に1回、沼垂は1684年までに4回も移転した。沼垂は阿賀野川から信濃川の湊に転換。



沼垂は半世紀に4回も移転。しかも阿賀野川から信濃川に大転換した

©みなとぴあ

## 3. 新潟湊成立の画期はどこか？

—河口湊と近世社会の成立—

1631: 阿賀野川河口の合流  
(合流前の河道を復元)

# 新潟港（西港区）航路浚渫事業



- ・ 航路水深を確保するため、大型浚渫船「白山」等により年間を通じて浚渫を実施。
- ・ 浚渫した土砂は、海洋投入及び入舟処分場、直轄土砂処分場への捨込により処分している。

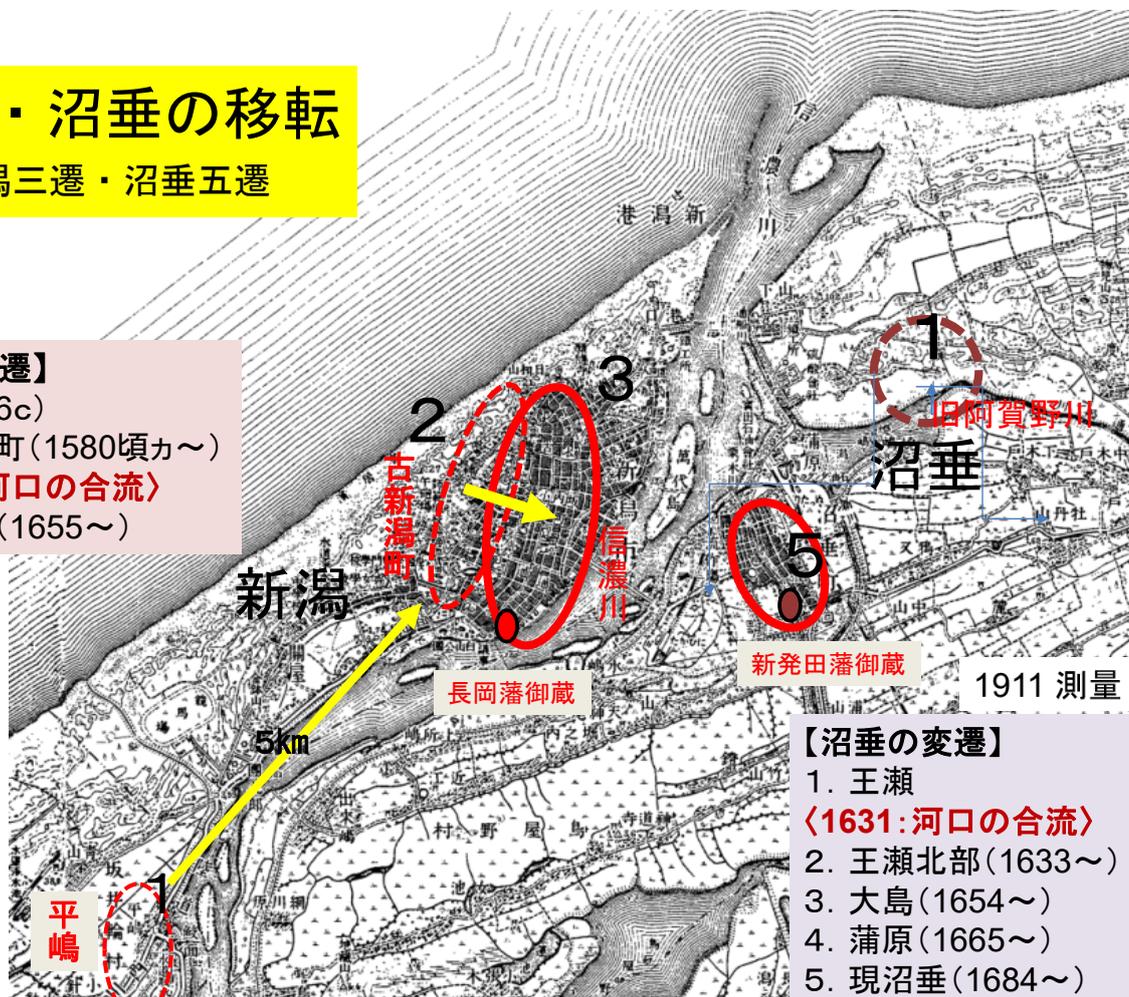


## 新潟・沼垂の移転

新潟三遷・沼垂五遷

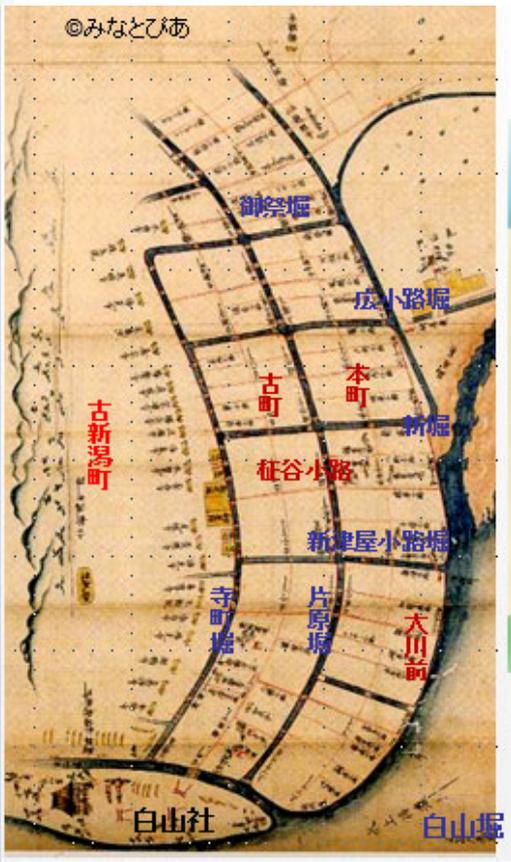
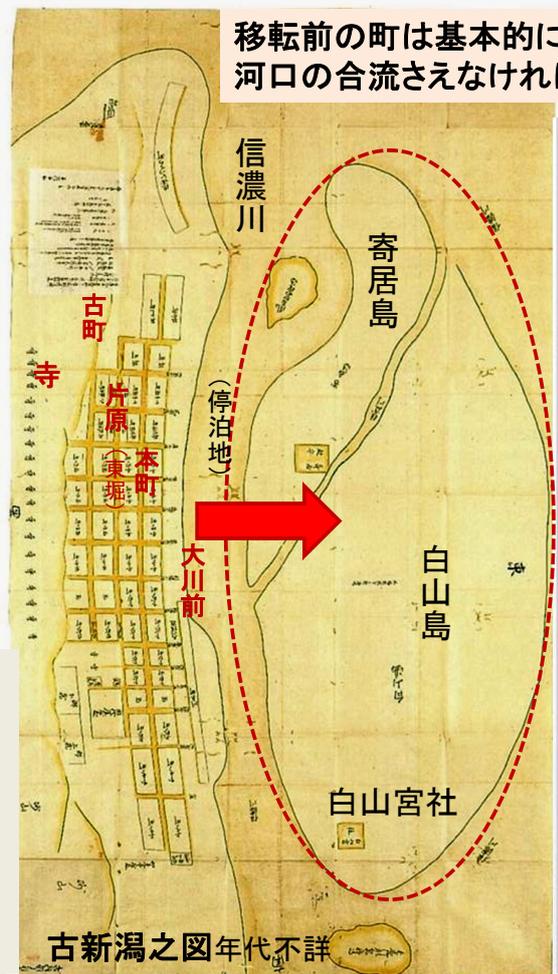
### 【新潟の変遷】

1. 平嶋 (16c)
2. 古新潟町 (1580頃力～)  
〈1631: 河口の合流〉
3. 現新潟 (1655～)



一六五五年、浜側の「古新潟町」から白山島（現新潟）への移転

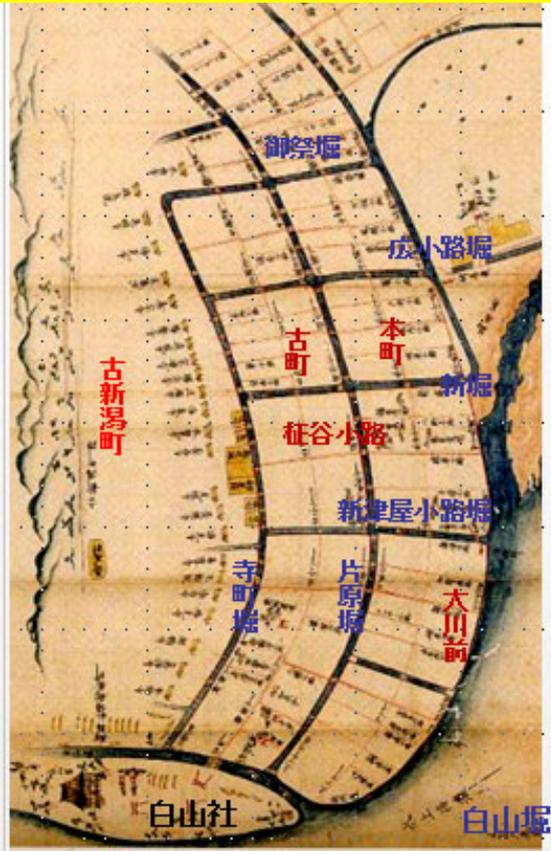
移転前の町は基本的に現新潟と同じ。町は完成していた。河口の合流さえなければ、古新潟は移転していなかった。



1631年阿賀野川河口の合流後、古新潟町の停泊場であった白山島との間の流路が浅くなったため、1655年古新潟町は、流路を埋めて白山島・寄居島に平行移動するかたちで移転した。

1655年、白山島に移転した新潟町

『新潟市史』資料編12自然 1991



新潟町絵図(文政6年/1823)

移転した白山島は地盤の安定した土地で新潟地震被害図から特定可能。古新潟町は史料や絵図、地質・地形等からみて、現寺町西側の西大畑・寄居周辺にあったとみてよい。



新潟地震の被害分布(1964)





永禄七年(1564)

**京都醍醐寺僧の旅の記録  
約2か月周遊・滞在**

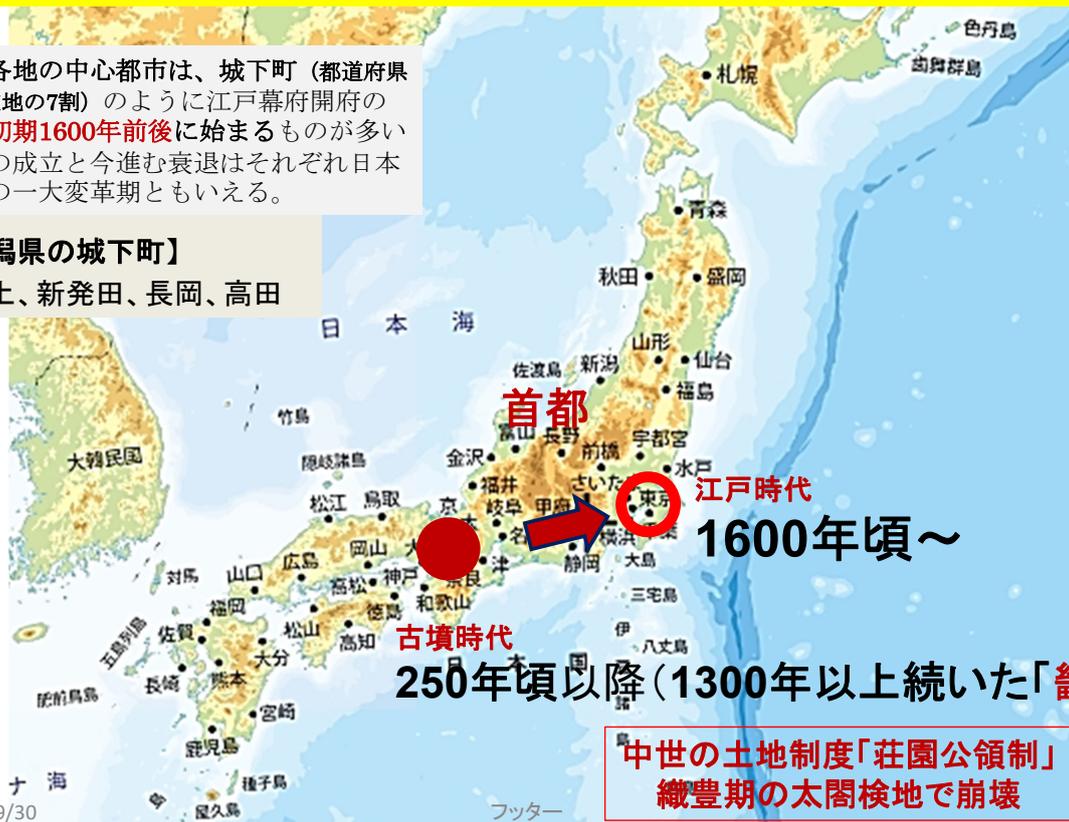
『北国下り遺足帳』の移動ルート  
 (会津)⇒馬下⇒村松⇒横越⇒コクラノワタリ15文⇒津島屋⇒蒲原⇒(ニイガタノワタリ10文)新潟⇒(14文)蒲原⇒(17文)沼垂⇒乙宝寺⇒池ノ端⇒安田⇒三条⇒新潟⇒弥彦

\* 沼垂と新潟の移動は蒲原を介しており、新潟は沼垂から近い河口にはなく平嶋にあったと推定される→河口への移転はこの後、1586年に近い天正期の可能性が高い。

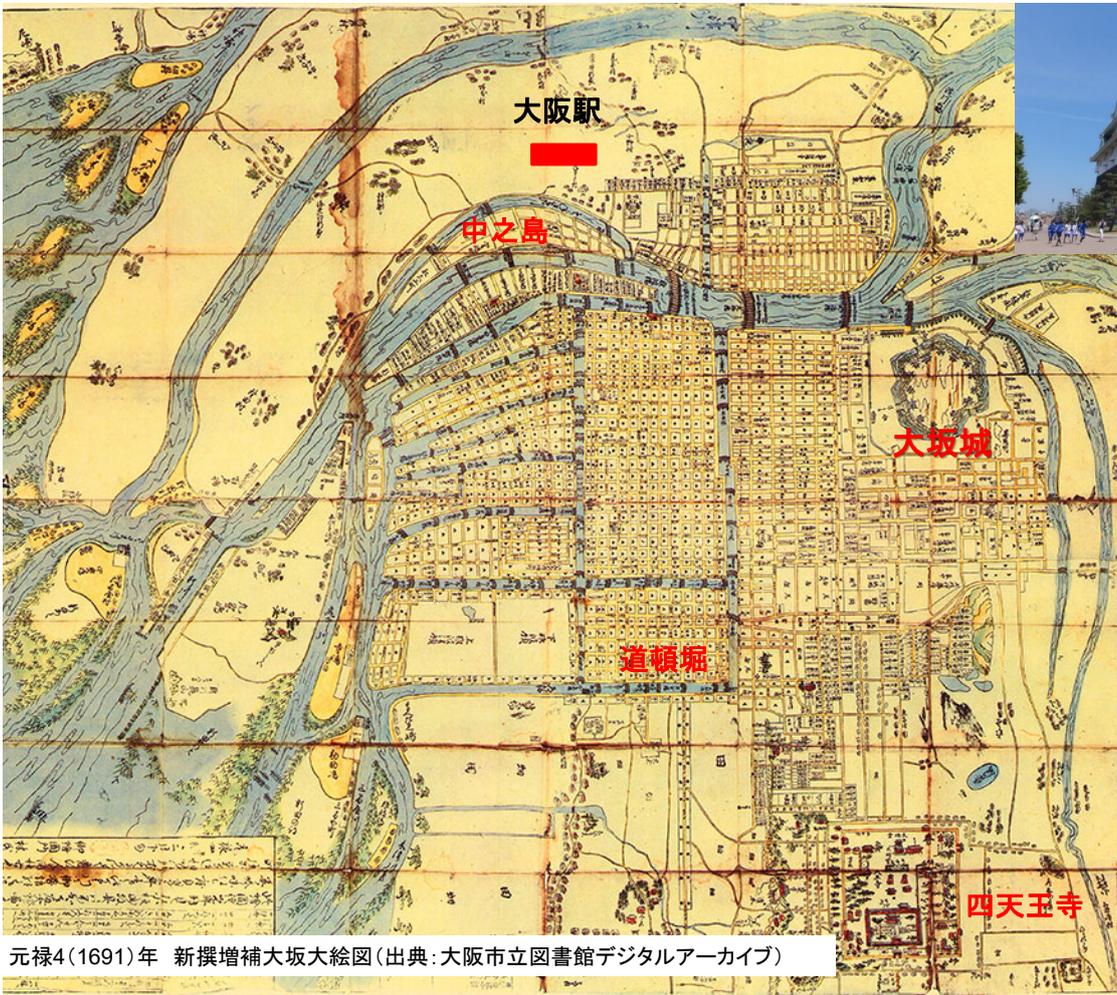
**近世初期における社会変動(政治・経済)**

日本各地の中心都市は、城下町(都道府県庁所在地の7割)のように江戸幕府開府の**近世初期1600年前後**に始まるものが多い。その成立と今進む衰退はそれぞれ日本社会の一大変革期ともいえる。

【新潟県の城下町】  
 ・村上、新発田、長岡、高田



中世の土地制度「荘園公領制」  
 織豊期の太閤検地で崩壊



大坂城  
豊臣秀吉  
1583年築城

元禄4(1691)年 新撰増補大坂大絵図(出典:大阪市立図書館デジタルアーカイブ)

## 東京のなかの「江戸」



赤坂見附



聖橋

江戸城外堀・神田川



御茶ノ水  
史跡・湯島聖堂



2019 03 24

# 1597年(慶長2)「越後国郡絵図」(瀬波郡)



\* 新潟県村上城/近世の城下町(武家町)がすでに存在する

## 【越後・佐渡戦国期】

- 1576: 信長安土城築城
- 1578: 上杉謙信死去  
御館の乱(景勝×景虎)
- 1580: 景勝家督相続
- 1583: 秀吉大坂城築城
- 1586: 景勝上洛(秀吉臣下に)
- 1587: 新発田城落城  
景勝越後統一
- 1590: 秀吉全国統一
- 1592: 景勝、佐渡検地
- 1594: 景勝、新潟代官
- 1598: 景勝会津に国替え  
堀秀治春日山入城  
新潟湊堀領、沼垂湊溝口領
- 1600: 関ヶ原合戦
- 1607: 福島城築城(春日山から)
- 1614: 高田城築城

## 【新潟県の城下町】

- 高田城/1614年～福島城から
- 長岡城/1616年～蔵王堂城から
- 新発田城/1598年～

## 4. 古代・中世の湍足柵・蒲原津

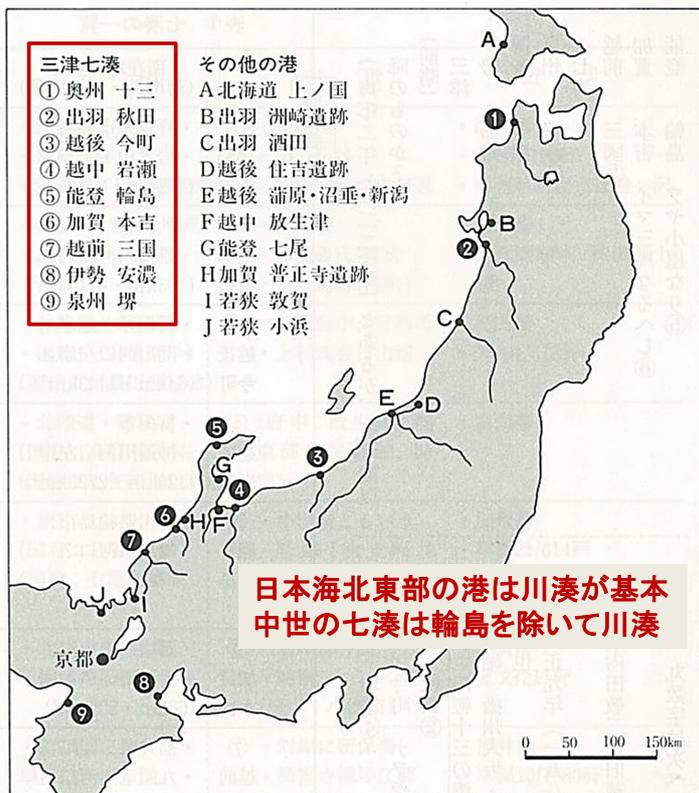


図1 七湊とその他の港の位置

©坂井2004

廻船式目

(貞応二年(一二二二))とあるが、室町期以降のものか?

(前略)

三津 岩瀬④

伊勢 今町 ナヤ直江なり③

博多 秋田②

泉州 津輕十三の湊①

七湊 右之巻軸、攝州大坂・泉州境・肥前國藤津に有之を寫者也、

天正九年(一五八一)九月十八日

(注) 丸数字は次ページ地図中の数字と一致。

(越前内田藏三氏旧蔵文書、『鎌倉遺文』より)

表1 七湊の一覧

\* 古代～近世を通じて港は継続する

	所在地・立地 (河川長・流域面積)	古 代	中 世	近 世
① 津軽 十三	・青森県市浦村 ・岩木川・十三湖 (102km・2540km <sup>2</sup> )	・津軽津？ ・福島城跡 ・須恵器・鉄の搬出地？	・安藤氏 ・山王坊跡 ・15世紀半ばに衰退	・津軽藩 ・元禄5/102軒 ・西廻航路起点は鯉ヶ沢
② 出羽 秋田	・秋田市 ・雄物川河口右岸 (133km・4710km <sup>2</sup> )	・658「アキタ」地名 ・出羽柵、秋田城	・土崎湊 ・湊安藤氏/湊城 ・後城遺跡(港町)	・秋田藩 ・寛政/2000軒(秋田風土記)
③ 越後 今町	・新潟県上越市 ・関川河口左岸 (64km・1143km <sup>2</sup> )	・北陸道・水門駅 ・国府(平安後期～) (国津：信濃川蒲原津)	・越後府中、守護所 ・上杉氏春日山城	・高田藩 ・天和1/612軒
④ 越中 岩瀬	・富山市 ・神通川河口左岸 (120km・2720km <sup>2</sup> )	・北陸道・磐瀬駅 (国府：高岡市伏木) (国津：小矢部川亘理湊)	(府中：放生津、関 東御免津軽船、時 宗)	・富山藩
⑤ 能登 輪島	・石川県輪島市 ・輪島川河口？  ・非川湊	・駅 (国府：七尾) (国津：七尾加嶋津)	・小屋湊ともいう ・時宗「能登河井 殿」 (府中：七尾)	・加賀藩 ・享保21/614戸
⑥ 加賀 本吉	・石川県美川町 ・手取川河口右岸 (66km・809km <sup>2</sup> )	・北陸道・比楽駅 ・比楽津(国津)	・対岸に今湊 ・時宗 (府中：小松市)	・加賀藩 ・寛文/217軒
⑦ 越前 三国	・福井県三国町 ・九頭竜川河口右岸 (116km・2930km <sup>2</sup> )	・国津？	・対岸に新保湊 ・興福寺領坪江郷	・福井藩 ・享保10/1080軒

©坂井2004



# ヤマト政権・律令国家の北辺「新潟」



飛鳥・奈良時代  
古代国家7c後半～



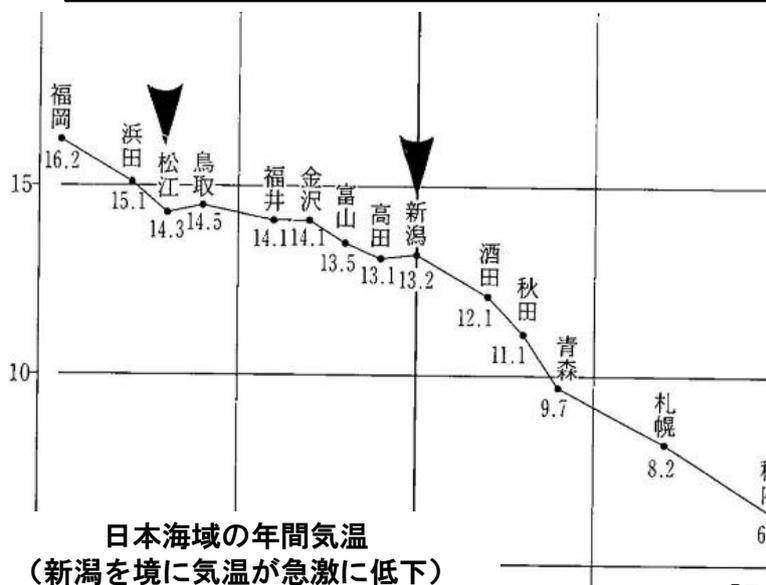
古墳時代  
ヤマト政権  
3c後半～

葛蒲塚古墳  
角田浜妙光寺山古墳

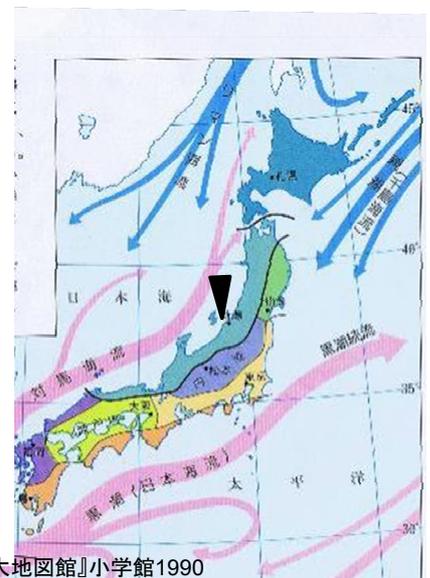
ヤマト政権・古代国家の  
領域北辺に位置する新潟  
＝北日本との接点

## 日本海側の気温変化と新潟

- ・新潟は日本海沿岸約2000kmの中央に位置。
- ・気候・環境条件が変化する境界に位置する。
- ・これが文化圏の境界に位置することと関係する。



日本海域の年間気温  
(新潟を境に気温が急激に低下)



# 淳足柵(沼垂城)と7c半ばの東アジア

【隋(589)・唐(618)建国】

・645:唐の高句麗遠征

→大化改新

\*難波宮造営へ

・647年:淳足柵造営

「淳足柵を造りて、柵戸を置く。」

・648年:磐舟柵造営

「磐舟柵を治めて、以て蝦夷に備ふ。」

・658~60年:阿部比羅夫の北辺遠征・領域確認(秋田・津軽・渡島等)

・660年:百濟滅亡(対新羅)

・663年:白村江戦(倭敗戦)

668年:高句麗滅亡

→国家存亡の危機。中国にならい律令国家・富国強兵国家の建設へ。西日本の軍事防衛



日本初の中国式宮殿

唐(中国)

高句麗

668滅

新羅

白村江

660滅

倭(日本)

長門城665

大野城665

基肆城665

(新潟市史)

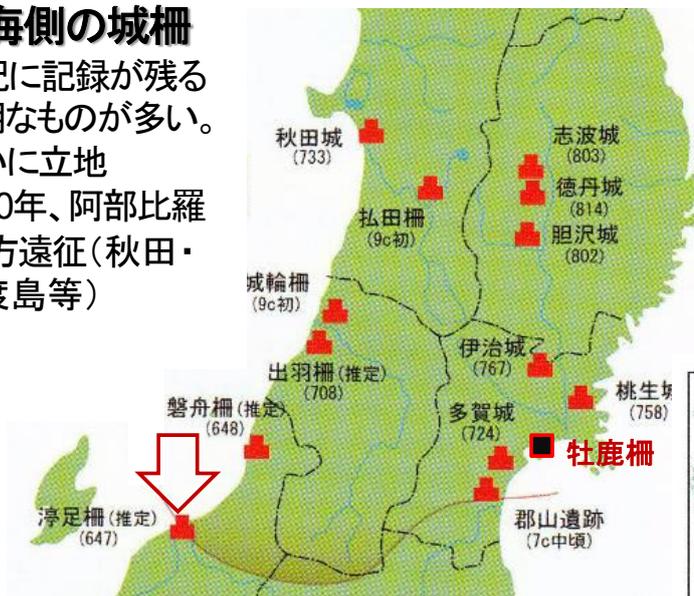
## 沼垂の起源—淳足柵の概要

645年:大化改新 難波宮造営→古代律令国家の樹立を目指す

647年:淳足柵造営 648年:磐舟柵造営 (沼垂郡・岩船郡の設置へ)

### ●日本海側の城柵

- ・日本書紀に記録が残るが、不明なものが多い。
- ・海岸沿いに立地
- ・658~660年、阿部比羅夫の北方遠征(秋田・津軽・渡島等)



### ●太平洋側の城柵

- ・北上が遅い(150年で150<sup>キ</sup>口)
- ・内陸に立地
- ・蝦夷との激しい抗争があった。



淳足柵想像図 家図

城柵(国家機関) = 城塞(軍事) + 行政

\*領土拡大のため「城柵」設置から「郡」創建へ

日本海側の城柵は、内地に近接した高台で、北方遠征に必須の港の機能をもつ。淳足柵も秋田城と同じく河口近くか(→阿賀野川河口右岸)。

古代の7～10世紀と16世紀とでは、河口の地形は変っているはずではあるが、移転する1633年までの沼垂の位置は参考になる。



沼垂郡  
690年頃越後国

蒲原郡  
690年頃越中国  
702年越後国に

沼垂 = 阿賀野川  
蒲原 = 信濃川

(南憲一氏作成図を改変)

©みなとぴあ

「大化改新」「淳足柵」以後に成立。「孝徳立評」に伴う開発か  
大沢谷内遺跡(秋葉区)



九九の習い書き木簡

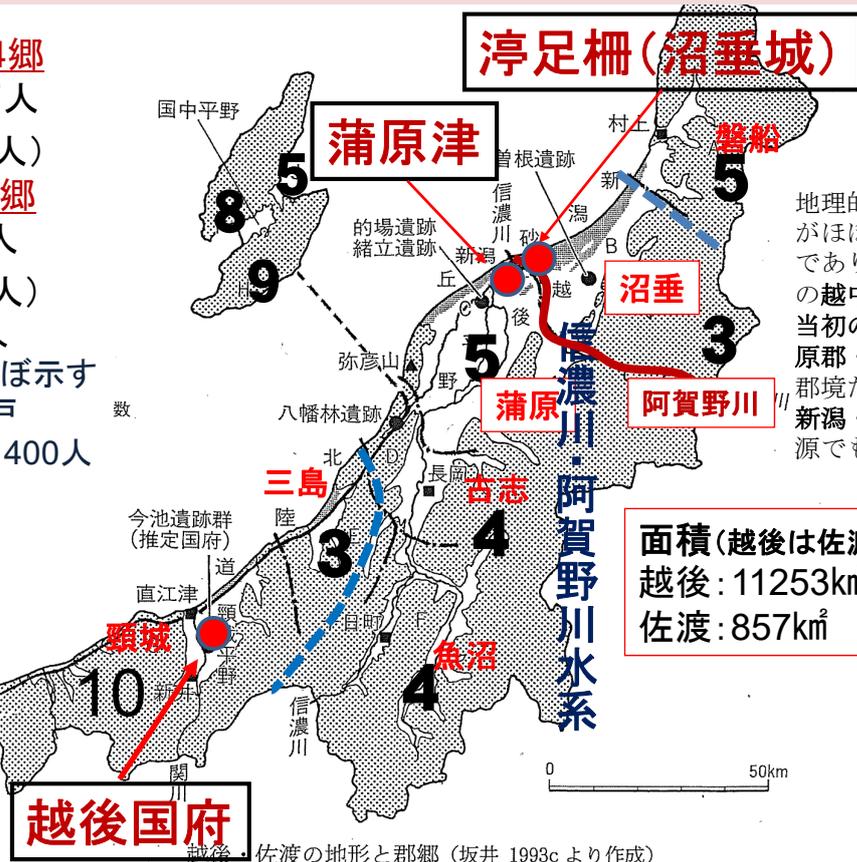


©新潟市文化財センター

# 古代越後の郡・国府・国津

- ・越後: 7郡・34郷  
人口: 約10万人  
(現代220万人)
- ・佐渡: 3郡・22郷  
人口: 約2万人  
(現代約6万人)
- ・全国約500万人
- \* 郷は人口をほぼ示す  
1郷(里) = 50戸  
1戸 = 1000~1400人

越後の中心地(国府)は上越市にあったが、蒲原津は広大な信濃川・阿賀野川流域を集約するだけに重要だった。



地理的な境界線がほぼ阿賀野川であり、7世紀末の越中・越後の当初の国境、蒲原郡・沼垂郡の郡境だ。のちの新潟・沼垂の根源でもある。

面積(越後は佐渡の13倍)  
越後: 11253km<sup>2</sup>  
佐渡: 857km<sup>2</sup>

## 新潟市的場・緒立遺跡(県史跡)

8~10世紀/奈良~平安時代の越後国の公的施設



西川・信濃川に通じる旧的場潟に面した砂丘地に立地

◎新潟市

# 信濃川河口の低湿地に立地 的場・緒立遺跡

—都に運ぶサケ等の漁撈・加工場—



新潟市歴史博物館の模型

・低湿地にたくましく生きる人びとがいたことを実感。  
・過去の人びとの営みに共感



鮭網の浮き・おもり



帯金具



サイコロ



人形



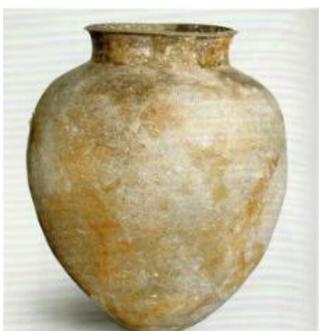
地鎮のため埋納



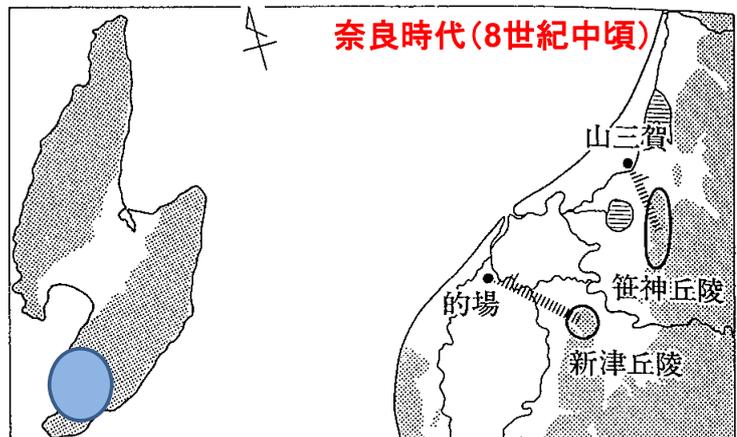
## 海を越えた佐渡産須恵器の流通

—小泊窯の須恵器—

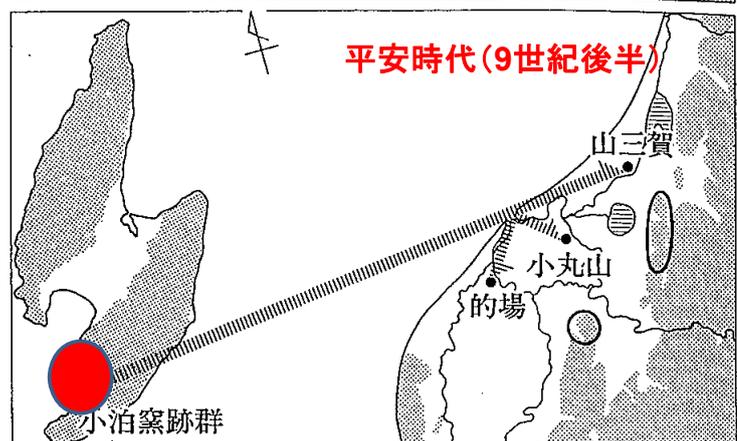
- ・9・10世紀に生産
- ・信濃川・阿賀野川の河口を経由して、内水面により内陸へ大量輸送。
- ・同時に越後の窯は衰退へ
- ・小泊窯では国分寺瓦を焼く。



寺泊沖から引き揚げられた須恵器



奈良時代(8世紀中頃)



平安時代(9世紀後半)

図61 須恵器の主要産地の変化  
上、8世紀中頃 下、9世紀後半

## 5. おわりに一港の近代化と大河津分水

- 1886: 萬代橋
- 1897: 沼垂駅開業
- 1904: 新潟駅開業
- 1914: **新潟・沼垂合併** 約73000人
- 1922: 大河津分水通水
- \* 都市軸の転換(東西)
- \* 川幅縮小
- 1926: 新潟築港

新潟は都市の近代化にあたり、湊町の基盤をなした信濃川を超えて、川幅を大胆に狭めて対岸との一体化を成し遂げた。



1925年(大正14)の新潟市

旧新潟税関(重要文化財・史跡)

\* 設置1869、開港1869



萬代橋1886年竣工



©みなとぴあ

旧県会議事堂

1882年建設、重要文化財

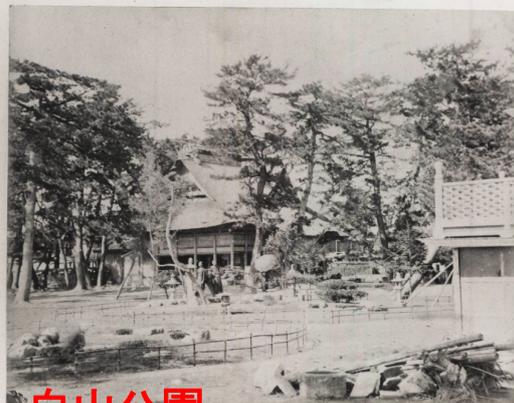


# 萬代橋と白山公園

—新潟が誇る近代遺産—



重要文化財の萬代橋



新潟  
白山公園内

白山公園

©みなとぴあ

日本初の都市公園(明治5年)

国名勝 初代新潟県令楠本氏在任中



万代クロッシングの橋脚  
(初代萬代橋(明治19年、781m))



## 1922年:大河津分水通水

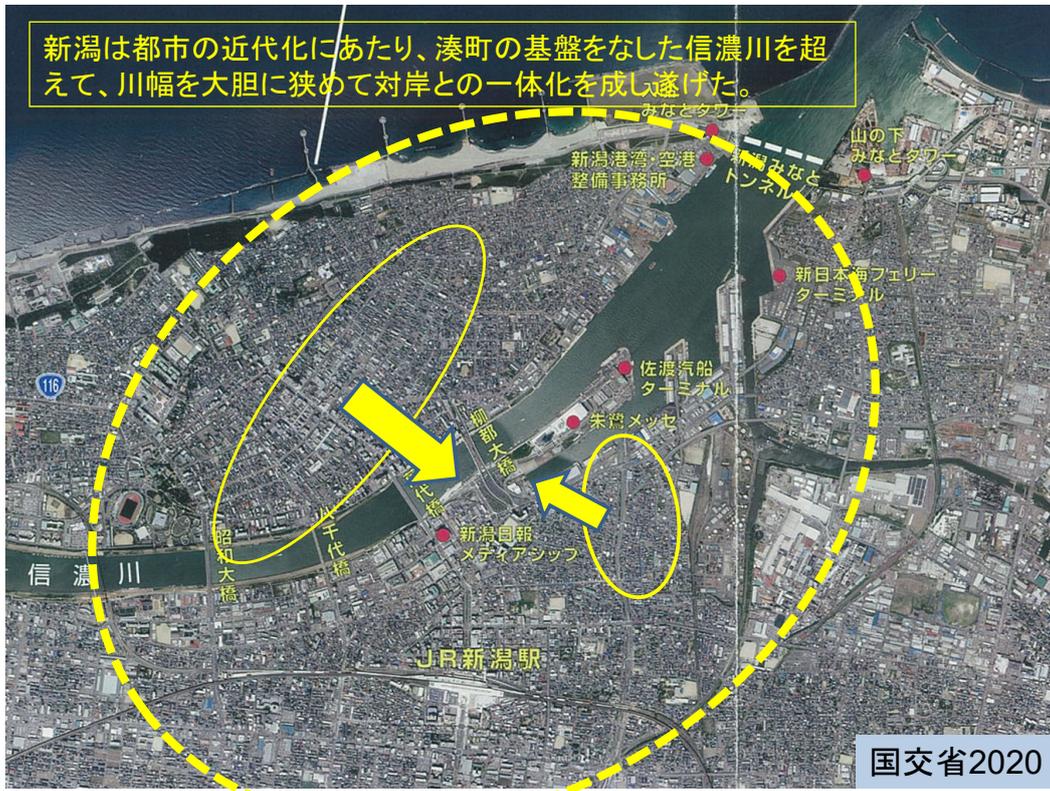
1922年の大河津分水通水に伴う信濃川の水位低下、流量安定は治水・利水のみならず、築港など都市機能の拡充を大きく推進した。



旧洗堰



慰霊碑



近代から現代へ 対岸への拡大 / 現新潟駅移転 / 新たな都市軸

## みなとオアシス新潟



## さいごに

- これほどの大河が貫流する都市は稀だ。その川岸に展開した新潟と沼垂は掘割を縦横にめぐらす水郷の町でした。戦後その役割は失われ、1960年代にはすべて埋め立てられ道路と変わりました。
- 失われた水路網は、地割・街区としてほとんど変わらずに残る。湊町の豊かな経済力を示す近世・近代の橋・名勝・社寺・商町家・花街・など多様な文化・文化財も豊富です。近世から近代が巧妙に引き継がれた魅力が息づく。これらを活かしつつ、時代に応じた変化を周到に加えることが、これからの景観まちづくりに求められます。
- 文化財に半世紀関わってきた私は、その保護と継承とは「地域の文化財を慈しみ、わが町を育む」ことだと考えています。そのためには、市民・住民、行政、専門家の三位一体の活動が重要です。市民のほか地域や企業に広がる動きにも期待しています。